２０２２年６月１２日（三位一体主日・聖霊降臨後第１主日、Ｃ年）
牧師メッセージ
「父と子と聖霊によって」
（ヨハネによる福音書 16:5-15）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音は主イエスの告別説教と言われる箇所の一部分です。主イエスは、ご自身が天に戻られることは悲しむべきことではない、と言われます。なぜなら、主イエスの昇天によって聖霊が降り、いつでも、「今」み言葉を聴く者に真理がもたらされるからです。今日の福音の一節です。

「父が持っておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けてあなたがたに告げる』と言ったのである。」

「父」は神、「わたし」はイエス、「その方」は聖霊です。神のものはすべて御子イエスのもの、そして聖霊は御子のものを受けて「あなたがた」にすべてのことを告げます。「その方は、自分が語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げる」とあるように、聖霊は主イエスの言葉＝神の言葉を届けます。

真理、言葉、すべてが聖霊によって「あなたがた」に届けられと主イエスは言われました。「あなたがた」とは誰でしょうか。それは、「今、あなたがたは理解できない。」と言われている弟子たちです。しかし「あなたがた」は、主イエスの言葉を直接聞いている弟子たちだけのことではありません。わたしたちも含めた、「今」主イエスのみ言葉を聴いている者すべてが、「あなたがた」です。「今」み言葉を聴くわたしたちも、聖霊によって、み言葉から真理へと導かれます。「その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」と主イエスが言われることがわたしたちにも実現するのです。「実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。」と主イエスが言われる通り、主イエスの昇天は、2000 年後を生きるクリスチャンたちにも「今」、真理の霊による導きをもたらすためだったのです。

神はわたしたちを遠くから眺めているだけではありません。そうではなく、御子と聖霊によって、わたしたちを今も導き続けます。この三位一体の神の有り様に、神の人への深い思い、愛が溢れています。クリスチャンは聖霊を通して「今」この愛を受け、「今」を歩んでゆくのです。